

離島振興開発地域

土地分類基本調査

「三井楽・福江・玉之浦・富江・男島及女島」

5 万 分 の 1

国 土 調 査

長 崎 県

1 9 7 9

序 文

国土は国民のための限られた資源であり、その有効利用を図ることが今後ますます要求されております。本県においてもその恵まれた環境を保全しつつ、地域の特性を生かした土地利用を基本理念として各種の施策を進めているところであります。

本調査はこのような諸施策を進めるに必要な調査のうち、最も基礎的「地形」「表層地質」「土壌」を主体とする土地条件を科学的、総合的に調査することを目的として、国土調査法に基づく都道府県土地分類基本調査を実施しているものであります。

本県の実施状況は、昭和48年度「肥前小浜」「長崎」「大村」昭和49年度「佐世保」「佐世保南部」「平戸」「早岐（長崎県佐賀県協同）」「唐津（佐賀県長崎県協同）」50年度「神浦」「野母崎」51年度「島原・荒尾」「口之津・三角」52年度「生月・志々伎」53年度「勝本」を実施しており、54年度は「三井楽・福江・玉之浦・富江・男島及女島」の地域の調査を実施しその成果をとりまとめました。

この調査の成果が広く関係各位に御活用いただければ幸いです。この調査の実施にあたり御指導、御助言を賜った国土庁土地局国土調査課をはじめ、調査に直接たずさわっていただきました方々、及び資料収集等積極的に御協力をいただいた各町並びに関係機関の方々に対し心から謝意を表する次第であります。

昭和55年12月

長崎県理事（土地対策担当）

渡 辺 寿 男

ま え が き

1. 本調査は、都道府県土地分類基本調査作業規程に基づき、長崎県土地対策室・農林部（総合農林試験場）・長崎大学教育学部の諸機関により実施したもので、調査の事業主体は長崎県である。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図および土地分類基本調査簿である。
3. 調査基図は、測量法第27条第2項の規定により建設大臣が刊行した5万分の1地形図を使用した。
4. 調査の実施・成果作成の関係機関及び関係担当者は次のとおりである。

指 導 国土庁土地局国土調査課

総 括 長崎県土地対策室

室 長 中 村 英 人

副主幹 築 瀬 昭

主 査 野 副 栄 樹

地 形 調 査

石 井 泰 義

開発関連調査（傾斜区分・水系・谷密度・土地利用現況）

表層地質調査 長崎大学教育学部

教 授 鎌 田 泰 彦

土 壌 調 査 長崎県総合農林試験場

部 長 小 野 末 太

専 門
研 究 員 松 尾 俊 彦

協 力 機 関 長崎県関係各課及び関係地方機関

並びに関係市町村

目 次

序 文

ま え が き

総 論

I 位置および行政区画	1
1. 位 置	1
2. 行政区画	1
II 地域の特性	2
1. 自然条件	2
2. 社会経済条件	
III 主要産業の概要	6
IV 開発の現状と方向	7

各 論

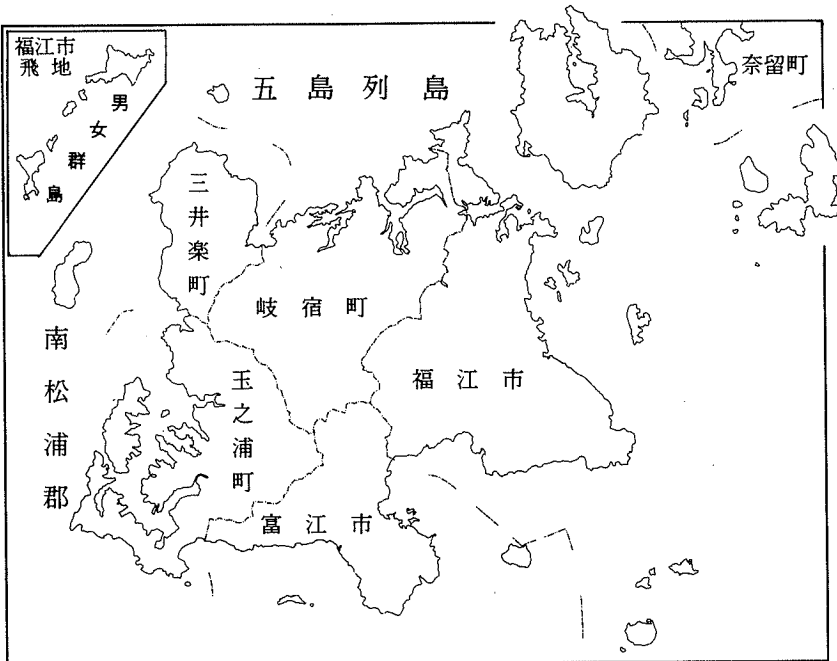
I 地形分類図	9
II 表層地質図	
III 土 壌 図	18
IV 傾斜区分図	26
V 水系・谷密度図	27
VI 土地利用現況図	29

總論

I 位置および行政区画

- 1 位 置：「三井楽・福江・玉之浦・富江・男島及女島」図葉は長崎県の西部五島列島の南部に位置し東経 $128^{\circ}15' \sim 129^{\circ}15'$ 北緯 $31^{\circ}55' \sim 32^{\circ}50'$ の範囲内にあり図葉内陸地面積は 403 km^2 である。
- 2 行政区画：本図葉の行政区画は福江市，富江町，玉之浦町，三井楽町，岐宿町，奈留町からなっている。

行政区画図



第1表 図葉内の市町村別面積

区分 市町村名	図葉内面積		市町村面積 B (km ²)	A/B (%)
	実数 A (km ²)	構成 (%)		
福江市	157.40	39.1	158.15	99.5
富江町	51.38	12.8	51.38	100.0
玉之浦町	67.90	16.9	67.90	100.0
三井楽町	34.05	8.5	34.05	100.0
岐宿町	86.16	21.4	86.16	100.0
奈留町	5.62	1.3	25.95	21.7
計	402.51	100.0	423.59	95.0

資料：建設省国土地理院調べ（S54年）

II 地域の特性

1 自然条件

ア 気象条件

この地域は、九州型気候区のうち西海型気候区に属し、冬暖かく夏は比較的涼しいといった典型的海洋性の気候に恵まれている。

第2表 月間平均最高気温

℃

観測所	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
	福江		12.1	12.1	14.1	17.5	22.1	25.1	27.9	30.0	27.7	23.7	16.5	14.4

第3表 月間平均最低気温

℃

観測所	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
	福江		4.4	5.1	5.6	9.6	12.1	19.4	22.1	23.2	19.9	13.9	8.8	6.2

第4表 月間降水量

mm

観測所 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総量 (平均)
福 江	121.5	189.5	151.5	208.0	200.5	622.0	289.0	277.5	42.5	53.0	142.5	132.5	2430.0 (202.5)

注 昭和54年1月～12月 (資料)長崎県気象月報(長崎海洋気象台)

第5表 観測所の位置

観測所名	所在地	東 経	北 緯	海 抜	摘 要
福 江	福江市木場町	128° 49' 6"	32° 41' 6"	26 m	図業東部

イ 土地利用の現況

図業内関係市町の平均耕地率は14%で県平均耕地率18%をかなり下廻っているが、これはこの島には複雑急峻な山が多く、又近年では社会経済情勢の変動に伴い農地転用、不作付地の増加等により年々減少したためである。

林業については、山林のほとんどは民有林で、自然林であり人工林が極めて少ないのが特色といえる。

このため民有林の約8割を占める雑木林について経済林2,100ヘクタールを目標に計画造林を啓蒙、推進している。

第6表 土地利用の現況

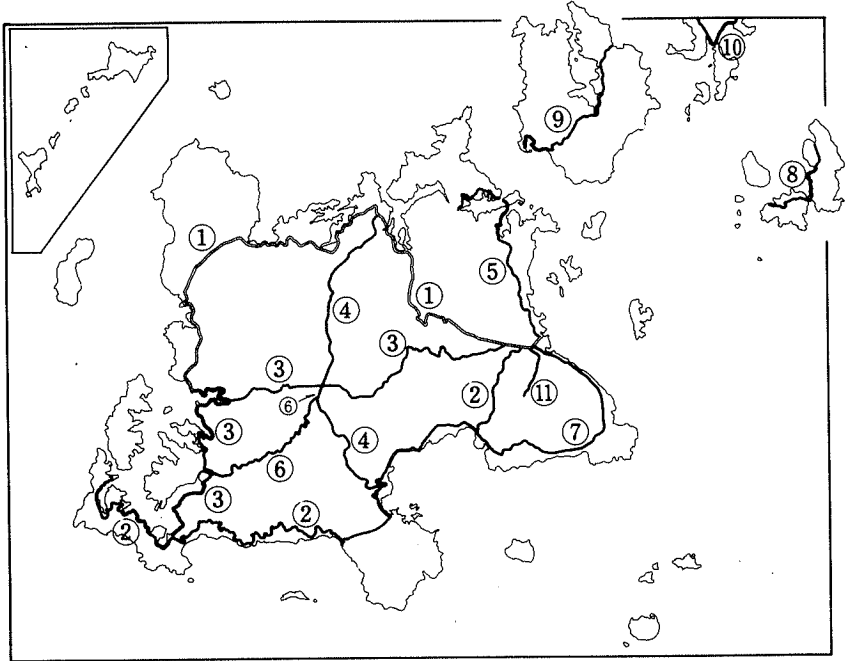
市 町 村	総土地面積 (A) <i>kt</i>	耕 地 面 積 (<i>ha</i>)				耕地率 (B)/(A)	森林面積 (C) <i>ha</i>	森林率 (C)/(A)
		田	畑	樹園地	計 (B)			
福 江 市	158.15	559	1,393	629	2,581	16	8,965	57
富 江 町	51.38	200	463	293	956	19	2,370	46
玉 之 浦 町	67.90	225	79	57	361	5	5,349	79
三 井 楽 町	34.05	151	695	175	1,021	30	849	25
岐 宿 町	86.16	593	288	135	1,016	12	6,252	73
奈 留 町	25.95	9	96	11	116	4	1,912	74
計	423.59	1,737	3,014	1,300	6,051	14	25,697	61
構 成 比		4	7	3	14		61	

資料：長崎県統計年鑑(S55)、長崎県の林業統計(S54)

ア 交 通

本土との交通は海上交通と空路により結ばれ、福江島には一般国道384号線が貫通し、10本の県道により道路網が整備されている。

道 路 位 置 図



1. 道 路

番号	区分	路線名	起点	終点
①	一般国道	384号	玉之浦町	佐世保市
②	主要県道	福江玉之浦線	福江市	玉之浦町
③	〃	福江荒川玉之浦線	福江市	玉之浦町
④	〃	富江岐宿線	富江町	岐宿町

- ⑤ 一般県道 戸岐首奥浦福江線 岐宿町
- ⑥ " 玉之浦岐宿線 玉之浦町
- ⑦ " 大浜福江線 福江市
- ⑧ " 樺島線 福江市
- ⑨ " 久賀島線 福江市
- ⑩ " 奈留島線 奈留町
- ⑪ " 福江空港線 福江市

2. 航 路

- ① 福江～奈留～奈良尾～長崎 定期フェリー便
- ② 福江～奈良尾～長崎 "
- ③ 福江～長崎 "
- ④ 福江～奈留～若松～青方～生月～平戸～博多 "

3. 空 路

- ① 福江～長崎 定期YS11
- ② 福江～福岡 "

イ 人 口

図葉内関係市町の人口は昭和55年62,086人であり人口密度は1㎢当り平均147人と県平均259人に比し低い。

人口推移をみると年々若干の減少を見ている。

第7表 関係市町村の人口推移

単位：人

年次 市町村名	40年	45年	50年	55.3.31	人口密度 55.3.31 (1㎢当り)
福江市	36,876	33,442	32,018	32,518	206
富江町	11,965	10,038	9,306	8,977	175
玉之浦町	5,493	4,390	3,883	3,380	50
三井楽町	8,423	7,321	6,329	6,045	178
岐宿町	8,285	6,889	6,062	5,734	67
奈留町	7,600	6,569	5,812	5,432	209
計	78,642	68,649	63,410	62,086	147

資料：長崎県統計年鑑 五島要覧（S55）

Ⅲ 主要産業の概要

図案内関係市町の人口は昭和50年63,410人で産業別就業人口構成をみると第一次産業46%、第二次産業10%、第三次産業44%となっており、農業就業者の占める割合が非常に高い。

第8表 産業別就業人口の構成 (単位：人)

市町村名	産業別 総数	第一次産業				第二次産業				第三次 産業
		計	農業	林業 狩猟業	漁業	計	鉱業	建設業	製造業	
福江市	12,615	4,429	3,354	24	1,051	1,465	74	857	534	
富江町	3,313	1,877	1,382	1	494	366	24	238	104	
玉之浦町	1,469	839	584	4	251	91	1	67	23	
三井楽町	2,345	1,265	811	1	453	201	3	162	36	
岐宿町	2,633	1,773	1,640	27	106	204	19	112	73	
奈留町	1,982	971	41	9	921	193	-	147	46	
計	4,357	11,154	7,812	66	3,276	2,520	121	1,583	816	
構成比	100	46	32	1	13	10	1	6	3	44
県全体に占める割合(%)	4	10	7	-	9	2	-	3	1	3

資料：国勢調査(S50)

第9表 主要産業の状況 (単位：百万円)

市町村名	農業			漁業		製造業			商業	
	農家数	うち 専業	農業粗 生産額	経営 体数	総漁 獲量	事業所	従業者	製造品 出荷額等	商店数	年間 販売額
福江市	戸 2,220	戸 870	4,254	隻 695	t 5,309	ヶ所 81	人 609	2,689	店 638	21,545
富江町	872	243	1,690	349	1,156	64	185	691	144	2,005
玉之浦町	488	48	335	223	355	7	19	120	66	894
三井楽町	700	195	1,095	194	1,736	13	41	84	120	1,183
岐宿町	987	180	1,041	82	725	11	75	430	103	704
奈留町	560	43	52	263	50,029	20	71	255	144	2,976
計	5,827	1,579	8,467	1,811	59,310	196	1,000	4,269	1,215	29,307
県全体に占める割合(%)	7	11	6	10	7	4	1	-	4	2

資料：長崎県統計年鑑(S55) 長崎農林水産統計年鑑(S53~S54)
長崎県勢要覧(S54)

IV 開発の現状と方向

図葉内関係市町地域は基幹交通体系の整備を基調に都市的地域の生活環境施設の整備を行い、農林漁業の振興を図るとともに、観光資源の整備充実、自然環境の保全を柱とし、次により対処するものとする。

福江市については、都市、港湾、空港等の整備を図り、その機能の充実に努める。

下五島については、優良農用地を確保しつつ、農林漁業基盤の整備を進める。また自然公園地域の整備、充実を図る。

各論

I 地形分類図

1 地形の概要

本図には、五島列島の南部にある福江島・久賀島・樺島・奈留島の1部、及び男女群島が含まれる。

福江島の胴体部は、東北-西南方向に走る山地をなし、東北方向の延長部には、久賀島・奈留島・樺島の山地が配列し、西南方向の延長部には、はるか100km余を隔てた海上に男女群島の丘陵地がある。

さらに、福江島の胴体部の両側には、火山体を伴っている。

上に述べた地形の性状を細説するため、次の地形図を設定した。

地形区分

I, 山地・山麓地

I a 福江島山地

I a - 1 鬼岳中起伏火山地

I a - 2 箕島及び属島小起伏火山地

I a - 3 京ノ岳小起伏火山地

I a - 4 嗟峨島小起伏火山地

I a - 5 福江島東部中起伏火山地

I a - 5 - A 鷲岳山地

I a - 5 - B 笹岳山地

I a - 5 - C 翁頭山地

I a - 5 - D 行者山地

I a - 6 福江島東部小起伏山地

I a - 6 - A 観音平小起伏山地

I a - 6 - B 猪掛峠小起伏山地

I a - 6 - C 浦ノ川中流小起伏山地

I a - 6 - D 繁敷小起伏山地

I a - 7 福江島西部中起伏山地

I a - 7 - A 大川原山地

I a - 7 - B 父ヶ岳中起伏山地

- Ⅰ a - 7 - C 岩谷中起伏山地
- Ⅰ a - 7 - D 牧場中起伏山地
- Ⅰ a - 7 - E 玉之浦湾東岸中起伏山地
- Ⅰ a - 7 - F 玉之浦湾西岸中起伏山地
- Ⅰ a - 8 福江島西部小起伏山地
 - Ⅰ a - 7 - A 小川原小起伏山地
 - Ⅰ a - 7 - B 中尾小起伏山地
 - Ⅰ a - 7 - C ベラケ岳小起伏山地
 - Ⅰ a - 7 - D 桐ノ木小起伏山地
 - Ⅰ a - 7 - E 布浦小起伏山地
 - Ⅰ a - 7 - F 長峰小起伏山地
- Ⅰ b 久賀・奈留・樺島山地
 - Ⅰ b - 1 久賀島中起伏山地
 - Ⅰ b - 1 - A 大御中起伏山地
 - Ⅰ b - 1 - B 白岳中起伏山地
 - Ⅰ b - 2 久賀島小起伏山地
 - Ⅰ b - 3 遠見番(奈留)小起伏山地
 - Ⅰ b - 4 ツブラ島中起伏山地
 - Ⅰ b - 5 樺島中起伏山地
- Ⅱ, 丘陵地
 - Ⅱ a 福江島丘陵地
 - Ⅱ a - 1 福江島東北岸丘陵地
 - Ⅱ a - 1 - A 戸岐湾岸丘陵地
 - Ⅱ a - 1 - B 大泊・平蔵丘陵地
 - Ⅱ a - 1 - C 浦頭丘陵地
 - Ⅱ a - 1 - D 属島丘陵地
 - Ⅱ a - 2 福江島北岸丘陵地
 - Ⅱ a - 2 - A 前小島丘陵地
 - Ⅱ a - 2 - B 坊主岳丘陵地
 - Ⅱ a - 3 福江島東南岸丘陵地

- Ⅱ a - 4 福江島西南岸丘陵地
 - Ⅱ a - 4 - A 大宝丘陵地
 - Ⅱ a - 4 - B 玉之浦湾奥丘陵地
 - Ⅱ a - 4 - C 玉之浦湾央丘陵地
 - Ⅱ a - 4 - D 玉之浦湾口丘陵地
- Ⅱ a - 5 久賀島丘陵地
 - Ⅱ a - 5 - A 久賀湾奥丘陵地
 - Ⅱ a - 5 - B 久賀湾口丘陵地
 - Ⅱ a - 5 - C 久賀島外縁丘陵地
- Ⅱ a - 6 奈留島丘陵地
 - Ⅱ a - 6 - A 奈留島南部丘陵地
 - Ⅱ a - 6 - B 奈留島中部丘陵地
- Ⅱ a - 7 樺島丘陵地
- Ⅱ a - 8 男女群島丘陵地

Ⅲ, 台地・段丘

- Ⅲ a 深江溶岩台地
 - Ⅲ a - 1 福江溶岩台地
 - Ⅲ a - 2 鬼岳溶岩台地
 - Ⅲ a - 3 箕岳及び属島溶岩台地
- Ⅲ b 富江溶岩台地
- Ⅲ c 岐宿溶岩台地
- Ⅲ d 京ノ岳溶岩台地
 - Ⅲ d - 1 京ノ岳周縁溶岩台地
 - Ⅲ d - 2 貝津溶岩台地
- Ⅲ e 嵯峨島溶岩台地

Ⅳ, 低地

- Ⅳ a 福江川谷底平野
- Ⅳ b 一ノ河谷底平野
- Ⅳ c 鰯川谷底平野
- Ⅳ d 松尾川谷底平野

- Ⅳ e 山手川谷底平野
- Ⅳ f 大川原川谷底平野
- Ⅳ g 貝津谷底平野
- Ⅳ h 中須川谷底平野
- Ⅳ i 大宝海岸低地
- Ⅳ j 戸岐・奥浦湾岸低地
- Ⅳ k 久賀島低地

2 地形細説

2-1 山地・山麓地 (I)

2-1-1 福江島山地 (I a)

福江島山地は、胴体部の山地 (I a-5, 6, 7, 8) とその両側に付随する火山地 (I a-1, 2, 3, 4) とに2分される。

火山地は、島の東南部に鬼岳中起伏火山地 (I a-1) と箕岳及びその属島火山地 (I a-2) とがあり、島の西北部には京ノ岳小起伏火山地 (I a-3) と嵯峨島小起伏火山地がある。

鬼岳中起伏火山地 (I a-1) は、深江溶岩台地 (Ⅲ a) 上に噴出した火山地で、山麓地は、アスピーテ状をなすが、頂上部には鬼岳 (315m)、火ノ岳 (314m) 及び中岳 (261m) の3つの火山碎屑丘を有する複合火山で、鬼岳の火口は、北側に開口している。箕岳及びその属島火山地 (I a-2) も、溶岩台地を基盤とする火山地で、箕岳・白岳のシダー・コーンがみられ、属島では、黄島番岳のほか、赤島・黒島の火山地があり、いずれも標高100m内外で、座の半径1km内外の点散する火山地で、富江に孤立する只狩山の小火山もこれに含めた。

京ノ岳小起伏火山地 (I a-3) は、傾斜10°内外を示す火山山麓地が、アスピーテ火山の緩斜面をなし、山頂部に火山碎屑丘からなる小火山地がある。嵯峨島小起伏火山地 (I a-4) も、全く同型の火山地をなしている。

福江島の胴体部を構成する山地は、中起伏山地が大半を占め、山地の中央を北方に貫流する鰐川を境として、それ以東の東部山地 (I a-5, I a-6) と以西の西部山地 (I a-7, I a-8) に2分される。

福江島東部山地は、島の東北端の半島部に、鷲ヶ岳が中起伏量を示し、半島基部では、観

音平の小起伏山地（Ⅰa-6-A）に低位している。さらに、中央部の山地は、一の河を境に、東に笹岳山地（Ⅰa-5-B）・翁頭山地（Ⅰa-5-C）、西に行者山地（Ⅰa-5-D）がある。笹岳・唐岳を含む笹岳山地は、中起伏量を示し、籠淵・大曲間に大坂峠の鞍部を有する。東部山地では最高峰の翁頭山（420m）・高岳を含む翁頭山地も中起伏量を示し、笹岳山地との間に、小起伏量の猪掛峠の小起伏山地（Ⅰa-6-B）を介在している。行者山地は、中起伏量を示し、山地中に北流する浦ノ川河谷を有し、河谷の上・中流部に浦ノ川中流小起伏山地（Ⅰa-6-C）を介在している。

東部山地が、西部山地に接する山地部は、鰐川・一ノ河の源流をなし、起伏量の小さな繁敷盆地周辺の繁敷山地（Ⅰa-6-D）である。鰐川-山内盆地-繁敷盆地-繁敷山地の線には、福江島山地を2分する構造線が想定されるのである。

福江島西部山地は、中起伏量の山地が大半を占め、局地的に小起伏山地を介在する。

本図中で最高峰を示す父ヶ岳（460.8m）は西部山地の西北方に位し、セン岳（431.5m）と共に父ヶ岳中起伏山地（Ⅰa-7-B）を形成している。父ヶ岳山地の北方には大川原山地（Ⅰa-7-A）・桐ノ木山地（Ⅰa-8-D）・小川原山地（Ⅰa-8-A）を伴い、前者は中起伏量、後の二者は小起伏量を示している。荒川川以南には、岩谷山地（Ⅰa-7-C）・牧場山地（Ⅰa-7-D）があって、共に中起伏の山地をなし、その東西に小起伏山地を伴っている。東では、山内盆地に接する中尾山地（Ⅰa-8-B）と中須川上流域のベラケ岳山地（Ⅰa-8-C）があり、西では、玉之浦湾奥に接する布浦山地（Ⅰa-8-E）と長峰山地（Ⅰa-8-F）がある。

玉之浦湾岸の山地は、中起伏量を示し、東岸山地（Ⅰa-7-E）では、中須浦兩岸の半島部がこれに相当し、西岸山地（Ⅰa-7-F）では、島山島及び大瀬山・星山の山地がこれに相当し、玉之浦・井持の背後では、小起伏量山地に移行している。これら西岸山地の外洋に面するところでは海食崖の発達が著しく、大瀬山の西海岸では、海食崖の高さは100mに達している。

2-1-2 久賀・奈留・樺島山地（Ⅰb）

久賀島の山地（Ⅰb-1）は、中央に久賀湾を抱いて、U字状に連なる中起伏量を示す山地で、浜脇の鞍部を境として西部の大卸山地（Ⅰb-1-A）と東部の白岳山地（Ⅰb-1-B）とに分かれる。大卸山地には、番屋岳（340m）・鶴岳・大卸山があり、北端は細石流・浜泊の丘陵地、久賀湾側は竹山・徳女岳・内上平の丘陵地に移行している。白岳山地

には福見岳・白岳があり、北端は、起伏量が減少し（Ⅰb-2）、折紙の丘陵地、久賀湾側は内幸泊の丘陵地に移行している。久賀島山地は、中央部において浸食盆地を形成しているのである。

奈留島の山地（Ⅰb-3）は、小起伏山地に属し、本図では東風泊に、その1部分が局地的に現われているにすぎない。

ツブラ島山地（Ⅰb-4）は、孤立してはいるものの起伏量250m以上を示し、樺島山地と久賀島山地との間であって、これらと西北-東南に配列しているため、同じ中起伏山地として取扱った。

樺島山地（Ⅰb-5）は、中起伏量を示し、首ノ浦の鞍部を隔てて、致彦山（325.9m）の山地と番岳の山地に2分されており、番岳（264m）は山地規模もツブラ島山地（276m）と対応している。

2-2 丘陵地（Ⅱ）

2-2-1 福江島丘陵地（Ⅱa）

福江島の丘陵地は、海岸ならびに属島の丘陵地が主で、内陸の丘陵地に乏しい。

福江島東北海岸の戸岐湾岸丘陵地（Ⅱa-1-A）では、湾の北岸に起伏量100m以下の丘陵地をなし、奥浦から大泊-南河原にかけての大泊・平蔵丘陵地（Ⅱa-1-B）では、起伏量100~200mの臨海丘陵地帯をなし、大蔵川に沿う内陸の浦頭丘陵地（Ⅱa-1-C）では、起伏量の小さな丘陵地帯となっている。また、この南方の小田・西来院や久木山の明星院では孤立した小丘陵地が溶岩台地上に散在している。また、福江島東北海岸丘陵地の沖合いには、多々良島・屋根尾島・竹ノ子島・中ノ小島・庖丁島・蝶蝶島が属島丘陵地（Ⅱa-1-D）を形成している。

福江島の北岸丘陵地（Ⅱa-2）としては、一の河川の河口に前小島丘陵地（Ⅱa-2-A）があり、また、白石浦の西に城岳、東に坊主岳があって、それぞれ中起伏山地から分離した丘陵地をなし、この丘陵地の西北方の海上に浮ぶ姫島の孤立した丘陵地と合わせて坊主岳丘陵地（Ⅱa-2-B）とした。

福江島東南の富江湾沿岸では、高岳から分離した増田・田尾の丘陵地が局地的な東南岸丘陵地（Ⅱa-3）をなす。富江溶岩台地上に孤立する番所山も小丘陵地を呈するが、湾内の属島は海食棚が主体をなし、丘陵地には含まれない。

福江島西南岸丘陵地（Ⅱa-4）には、玉之浦湾西岸中起伏山地（Ⅰa-7-F）の陸繋

部をなしている大宝丘陵地（Ⅱ a - 4 - A）があり、外洋に面する力尾崎-大宝崎には鯛ノ鼻から大瀬崎を経て、約 10 km にわたって連続する海食崖の発達が著しい。立谷・赤崎鼻対岸の半島肢部は、小規模な湾奥丘陵地（Ⅱ a - 4 - B）をなし、大瀬山・星山の中起伏山地の先端部には、戸竹・玉之浦・小浦の湾奥丘陵地（Ⅱ a - 4 - C）がある。玉之浦湾の湾口の東岸には、布浦・河原浦・山浦・三郎小浦間に突出する半島の肢部があって丘陵地をなし、西岸・島山島側では、昼寝浦・浅切浦・黒小浦・蕨浦・雁泊間に突出する半島の肢部が丘陵地をなして、湾口の島と共に湾口丘陵地（Ⅱ a - 4 - D）を形成している。

2-2-2 久賀島丘陵地（Ⅱ a - 5）

久賀島中起伏山地（Ⅰ b - 1）の中央部は、上述の如く、浸食盆地をなして、高度が低位し、標高 200 m 内外の丘陵地（Ⅱ a - 5 - A）が発達し、中起伏山地（Ⅰ b - 1）との接触部には明瞭な鞍部が指摘される。久賀湾の湾口は狭く、その両岸には、野首・浜泊や折紙の湾口丘陵地（Ⅱ a - 5 - B）がある。また、島の外縁部の蕨小島・早崎・福見鼻・野園・浜脇・田ノ浦では、中起伏山地から鞍部を隔てて分離した小規模な丘陵地が散在して外縁丘陵地（Ⅱ a - 5 - C）をなしている。

2-2-3 奈留島丘陵地（Ⅱ a - 6）

本図中に示される奈留島の丘陵地は、城岳丘陵地を中心に、椿原・相浦丘陵地が、中部丘陵地（Ⅱ a - 6 - A）をなし、浦以南の半島部をなす泊・立岩の丘陵地ならびに前島・末津島の属島丘陵地が南部丘陵地（Ⅱ a - 6 - B）を構成している。

2-2-4 樺島丘陵地（Ⅱ a - 7）

樺島丘陵地（Ⅱ a - 7）は、樺島西南部の番岳西麓に接する丘陵地で、番岳山麓線に平行な伊福貴の河谷や海岸線によって、西北-東南方向の3つの丘陵群に分割されて配列している。椎ノ木島は中央の列に属する丘陵地で、中ノ小島・大小瀬などの属島は南側の列に属する丘陵群である。

2-2-5 男女群島丘陵地（Ⅱ a - 8）

男女群島は、溶結凝灰岩からなり、起伏量 100～200 m を示す丘陵群で、丘陵の斜面は 10°～15°のゆるやかな傾斜を示し、男島・女島では原面の保存が良好であるが、全島高

さ50m以上に達する海食崖によって囲まれ、丘陵地の末端部は切断されている。男島の鋸崎・黒崎の離やクロキ島・ハナグリ島の北端では、丘陵地がビュート状の弧丘又は弧丘群に移行し、海食棚の発達も良好である。寄島や女島では2段の海食崖もみられ、特に女島の東岸、次郎鼻付近では、女島の最高点281.3m近くにまで達する3段の急崖がある。

2-3 台地・段丘(Ⅲ)

2-3-1 深江溶岩台地(Ⅲa)

福江島東南部の鬼岳火山ならびに箕岳火山及び属島火山の基盤をなす溶岩台地で、鬼岳火山地と翁頭山地との間には、標高50m内外の福江溶岩台地(Ⅲa-1)があり、福江市街地はこの上に立地している。さらに急崖を境として、鬼岳火山地に接する標高80m内外の鬼岳溶岩台地(Ⅲa-2)があって、その上に福江空港が設けられている。箕岳火山や赤島・黄島・黒島の基盤をなす箕岳及び属島溶岩台地(Ⅲa-3)は、標高40m以下で、大板部島・小板部島は標高15m内外の溶岩台地の島である。

福江島南部に円形の半島状を呈している富江溶岩台地(Ⅲa-4)は、只狩火山(84m)から流出した標高50m以下の低平な溶岩台地で、富江湾内の多郎島・竹ノ小島・和島は標高5m内外の溶岩台地である。

福江島の北部にある岐宿溶岩台地(Ⅲc)は、鰐川の下流、志田尾から楠原を経て岐宿、さらに北端は八朔鼻に達する標高50m以下の溶岩台地で、鰐川左岸の1部に標高80m内外を示す高位のものが指摘される。

福江島の西北に円形の半島をなす京ノ岳火山地の周縁の正山・後網・高崎・柏崎・船江・丑ノ浦には、標高30m内外の京ノ岳周辺溶岩台地(Ⅲd-1)があり、火山地の南に接する貝津溶岩台地(Ⅲd-2)も、標高30m内外を示し、飛行場や県放牧試験地がある。

その西方海上の嵯峨島火山の基盤をなす嵯峨島溶岩台地(Ⅲe)は、雄岳・雌岳の中間に現われ、嵯峨島の集落が立地している。

2-4 低地(Ⅳ)

本図中には低地は極めて乏しく、福江島の中央部に鰐川谷底平野とその周辺の扇状地とによって山内盆地の低地が指摘される以外は、狭長な谷底平野と海岸部に局地的にみられる干拓地の低地がみられるにすぎない。

福江川谷底平野(Ⅳa)は、福江溶岩台地を刻む谷底部で、吉田・野々切の盆地状低地以

外は狭長であり、福江港の臨海地は埋立地である。また、周辺には、浜町の干拓地・増田川谷底平野・田尾川谷底平野・田部手川谷底平野の小規模な低地がある。

一ノ河谷底平野（Ⅳ b）は、一ノ河の上流部に盆地状の繁敷低地、下流部に大曲低地、河口に河務の干拓地を有するほかは峡谷状をなし、低地に乏しい。

鰐川谷底平野（Ⅳ c）は、中流部の中岳付近に巾広い谷底平野を有し、周辺の扇状地と共に山内盆地の低地を形成し、五島列島随一の平野をなしている。下流部は溶岩台地を刻む峡谷で、谷底に乏しい。

松尾川谷底平野（Ⅳ d）は、富江溶岩台地と繁敷山地との接触部に介在する低地である。

山手川谷底平野（Ⅳ e）は、松尾川谷底平野に隣接する小規模な低地をなす。

大川原川谷底平野（Ⅳ f）は、福江島の西北部にあり、大川原川と小川原川の谷底低地で、河口近くに白石浦干拓地を有する。

貝津谷底平野（Ⅳ g）は、貝津溶岩台地を刻む砥淵川と貝津川との小規模な低地である。

中須川谷底平野（Ⅳ h）は、福江島の西南部にあり、上流部に踊瀬・上ノ平・幾久山の局地的低地を有ち、河口の中須干拓地は、小川川河口の干拓地と共に一連の低地を形成している。

大宝海岸低地（Ⅳ i）は、福江島の西南端にあり、大宝浦砂丘背後の低湿地と笹海干拓地よりなる海岸低地である。

戸岐・奥津湾岸低地（Ⅳ j）は、福江島の東北部にあり、唐船之浦の湾奥の開干拓地と奥浦湾の湾奥の奥浦干拓地ならびに大蔵川の谷底低地よりなる。

久賀島低地（Ⅳ k）は、久賀湾の湾奥部の大開干拓地を主なる海岸低地とし、それに市小木川と猪ノ木川の谷底低地が加わっている。

（長崎大学名誉教授・石井泰義）

Ⅲ 土 壤 図

1 山地の土壤

1-1 概 要

本邦西端五島列島の兩半部にあたり、福江島・久賀島・奈留島・嵯峨島等が含まれる。他にも小島嶼が多く、海岸線延長は極めて長い。大山塊がなく、面積最大(327km²)の福江島でも標高の最高は460mに過ぎない。200~400mの中起伏山地が大半を占め、間隙を縫った低地を農地、居住地域として利用する形が一般的となっている。但し、基盤の第三紀堆積岩を貫いた火山地では農地の比率が圧倒的に高い。海及び風の影響が強く、全域にわたって乾性の土壤が広い分布を示す。又、赤色系の土壤が広汎にみられ、これと隣接し、モザイク状に黄色系土壤が認められる。褐色森林土は火山性母材が草本性植生に長期間被覆されたとみられる地域に多く出現する。腐植に富み、黒ボク土にきわめて類似している。内陸部には三紀層母材のものも存在するが、周辺の赤・黄褐色系土壤と性格に大差がなく偶発的な印象もある。海浜には小規模な砂丘未熟土壤が散在するが、後背地に生活圏域を抱える場合には防潮・防風砂防林の造成を強く求められている。西北部玄武岩地帯には暗赤色土壤がみられ、耕地防風林として利用されている。

1-2 細 説

1-2-1 乾性褐色森林土壤

一種は福江市鬼岳を中心とした草地に模式的に現われ、類形は玄武岩質母材からなる付近の小島嶼にも分布する。黒褐色のA層と褐色のB層との境界は明瞭。地表はススキ・チガヤ等によって覆われる。リン酸吸収係数はA₁層でも1.800程度を示し、やや大きい。立地条件が厳しく、経済林としての活用は困難である。

富江町・三井楽町の農地周辺のものにはマツが失なわれたあと、スダジイを主とした矮小な常緑広葉樹が残って、耕地防風防潮林の機能を辛くも果している。

一方、内陸部中起伏山地の尾根・山腹に分布するものはA層の色はずっと淡く、厚さも薄いですが、B層へは漸移する。植生は照葉樹の二次林で、部分的にはヒノキ造林に利用されている。風から保護されていれば一応の成林が見込まれる。

1-2-2 乾性褐色森林土壤(黄褐色)

赤褐色の土壤に随伴して各所で見られる。色調は異なるが、土壤断面も諸性質も互に似通っ

ている。地表植生や山地利用の実態も共通である。淡色の表層A～AB層は浅く受蝕的な傾向もみられる。植被は照葉樹二次林が並通で、ウラジロもごく一般的にみられる。生産力は低くよほど風から保護されていない限り、拡大造林は見合わすべきであろう。

1-2-3 乾性褐色森林土壌（赤褐系）

五島林地土壌の基調となる統群であり、全域に広く分布する。赤色風化殻に由来すると考えられ、下層土はほゞ5YR 5/6程度、あるいは更に強い赤みを呈する。A層はあまり発達せず、酸性が強い。塩基置換容量が低く、地力は概して乏しい。本来の植被であったマツがなくなったので、多くは照葉樹に被われている。ヒノキの造林に相当面積が利用されているが成功しているのはごく一部といえよう。林床植生として頻度が高く、五島地域での特徴ともなっているウラジロはこの土壌タイプ上に多い傾向がある。

1-2-4 褐色森林土壌

山間部の凹地に分布する。A層がやゝ発達し、B層も深い。殆んどはスギ・ヒノキの造林地となっている。五島としては生産力が高く地位指数（S I・40年生時の樹高*m*）12～14が見込まれる。

1-2-5 褐色森林土壌（黄褐系）

1-2-6の褐色森林土（赤褐系）とは土色は異なるが性格も植生の状況もよく似ている。部分的にはかなりの生産力を持つが、大面積に皆伐し、一斉に造林を行うには相当の危険がある。植栽にあたっては潮害対策に特に留意し、郷土樹種による十分な厚さの保護帯を設ける等の配慮が必要である。

1-2-6 褐色森林土壌（赤褐系）

下降斜面に非常に広く分布する。やゝ発達したA層を持ち、B層下部は赤みを帯びる。風から保護されていればある程度の生産力（S I12前後）が期待される。ヒノキ・スギ植栽に広範に利用されているが、局地的にかなり生育差がみられる。まだ広葉樹が生立したまゝの部分も残っているが全部が造林適地とはいえない。

1-2-7 暗赤色土壌

玄武岩を母材とし、下層の土色の赤色が強いもの。北・西部三井楽町と嵯峨島・姫島に分布する。ほとんどが採草地あるいは広葉樹二次林となっている。土壌自体の生産力も高くはなく、立地条件も厳しいうえ、長期間人為による地力収奪を受けており、積極的な利用には向かない。郷土樹種を大切に防風防風機能を高めるのが良策であろう。

1-2-8 砂丘未熟土壌

五島は海岸線延長は長大だが岩礁による海岸が多く、大きな砂浜は少ない。しかし小規模なものは各地に散在する。一方生活圏の拡大に伴い、これら海浜のすぐ背後まで居住域が伸張してくる例がふえている。このため海浜のうちあるていど規模の大きいものと砂防植栽を考慮することがありそうなものを取りあげ、残りは非農・林地の中に包括した。酸度が低く、石灰をはじめ塩基類が極端に多いが、他の要素は極めて乏しい。植物も不安定な砂浜に生立するとされるコウボウムギ・ハマグルマといった草生もあまりみられないような有様で立地条件としては厳しいところが多い。

防風砂防林の造成を緊急に要請されている地域では防風工を設置したウエクロマツ・モクマオウ・ハマビワ・トベラ・サンゴジュ・シャリンバイ等多種類の植栽が試みられており、見通しも得られ始めている。

1-2-9 褐色低地土造成相

砂浜に防風帯を造置する目的で、大がかりに客土し、そこにクロマツを植えた事例がある。山土の心土を客土したので性格的には崩積性未熟土に近いものとなっている。設置後数年で既に3mの樹高生長を示しており、時間的には早く目的を達し得よう。

1-3 利 用

昔から五島産の木材は品質がよいとの定評があった。これは立地条件が恵まれないため、肥大生長が適度に抑えられ、年輪巾が狭く均一であり材にもねばりがあるために得た評価であらう。地域特性を一言でいえば、五島は生育はやゝ不良、樹形は梢殺形と位置づけられる。年中海洋と風の影響に晒られ続け、依って立つ土壌も瘠薄な五島でのごく自然な帰結といえよう。このことは五島全体としての立地条件の厳しさをよく表わすものと思われる。

一方、人工林率が増大し、植栽樹種が単純化すると、諸害に対する抵抗力が急激に低下し、危険度が高まることは広く知られている。昭和53年の18号台風による潮害は五島のヒノキに大被害を及ぼし、海洋林業を唱える本県にとって大いなる警鐘となった。今後の造林に際しては、適地を選び、周辺に充分な巾の防護帯を設け、風・潮から守る形での推進が必要である。潮害跡地をめぐる各種善後策の一つとして、耐塩性の面からイヌマキ造林が考えられているが、郷土樹種でもあり、長い文化の伝統に培われ親しまれて来ているので安定感や信頼感が高く、優れた着眼といえる。

そのほか、一斉単純林を避ける意味で、ヒノキ植栽の際にスギを混植することがもっと試み

られるべきだと考えられる。いろいろ問題はあろうが、除・間伐に際して加減すれば最終の収穫樹種は単一にもなり得る。更に海洋をへだて、運賃負担力の乏しい素材を出荷するのであるから、市場での競争条件はかなり不利といえる。利益を大きくするにはコストの低減、品質の向上という一見矛盾した施業努力が必要となる。これを達成するには生産目標をきちんと定め目的に沿った施業を怠りなく実施し、必要以外の投資は省く合理性が要求される。又、素材の生産のみを金科玉条として他を一切捨て去ってしまう純血主義は、林業が本来有する多様性、うまみを自ら放棄するもので愚策といえよう。緑化樹であれ特産品であれ地元を潤おす可能性があればこれを伸ばす姿勢が望ましい。

特産では一時斜陽化していたツバキが最近再び脚光を浴びている。しかし成長が遅く、効率よく着果させ、集荷するにはそれなりの手入れも要する。息の長い地道な対応が必要とされる。

マツが枯損したあとの防風・防潮林造成は、地域にとってきわめて深刻、重要な課題であり努力も続けられている。植被の活着、及び安定化を阻害する因子は地域によって夫々異なり、対応もそれなりに変える必要がある。（長崎県総合農林試験場 松尾俊彦）

下 五 島 地 域

2 丘陵台地低地の土壤

2-1 土壤の概要

本図幅は五島列島の南部にあたり、福江島・久賀島・樺島および奈留島の一部が含まれる。本地域は対馬暖流に接しているため、温暖で無霜地帯が多い。年平均気温は富江で16.6℃で年間降水量は2,100mm程度でやや多いが、6月～8月は連続旱天の頻度が高く、早ばつのおそれが多い。

福江島では対州層が基盤をなし、中央部にはひん岩、花崗岩に貫かれ、三井楽・富江・福江においては玄武岩に覆われている。対州層地帯は複雑急峻な地形で、低地は小河川の流域に分布し、水田として利用されている。中でも岐宿町二本楠より北に開けた盆地には沖積層が発達し、水田として利用され、その両側は畑地として利用されている。玄武岩は三井楽・富江では溶岩台地を形成し、主として粘質な黄色土壌が分布しているが、赤色土壌も点在している。鬼岳・火岳の山麓は緩傾斜地で、主要な農耕地となっており、黒ボク土壌や淡色黒ボク土壌が分布し、畑地として利用されている。

三井楽および鬼岳周辺の畑地では昔から海岸の貝殻砂を混入した堆肥を施用する習慣があり、反応はアルカリ性となっているところがある。土壌の反応がアルカリ性になると、微量元素欠乏が発生しやすいので注意を要する。

本地域は県下でも随一の畑作地帯であり、肉用牛・養蚕および葉たばこを柱に、良質米の生産、ばれいしょ・いんげん・だいこん・メロン等野菜の産地化が進められている。

2-2 土壤の細説

2-2-10-1 褐色低地土造成相

干拓後塩害回避のため、山土を客土したもので、客土後の年数が10年程度経たところは鉄・マンガン斑紋が認められるが、新しいところは斑紋は認められない。土壌のタイプとしては崩積土に近いものである。水田として利用されている。

2-2-11 厚層黒ボク土壌

腐植含量5%以上の黒ボク層が地表下100cm以内の大部分を占める土壌である。表土の土性はCL～LiCで、下層土もCL～LiCである。保肥力は大きく、磷酸吸収係数も2.000以上で大きく、磷酸質肥料の施用法は注意が必要である。石灰・苦土等の塩基含量は多く、PHは7.0前後である。土壌の物理性は良好で有効水分は多い。

鬼岳周辺に分布し、畑地として利用されている。

2-2-12 黒ボク土壌

腐植含量5%以上の黒ボク層の厚さが50cm以内の土壌である。表土、下層土ともに土性はCL~LiCである。土壌の性質は厚層黒ボク土壌に類似している。土壌のPHは2.0前後であるが、2.0以上あるところは微量元素欠乏のおそれがあるので、肥料は酸性肥料を施用した方がよい。鬼岳周辺に分布し、畑地として利用され、桑・飼料作物・タバコ・野菜等が栽培されている。

2-2-13 淡色黒ボク土壌

腐植含量が5%以下の黒ボク土壌である。表土、下層土ともに土性はCL~LiCである。土壌の性質は黒ボク土壌に類似しているが、塩基置換容量および磷酸吸収係数は黒ボク土壌よりやや小さい。土壌の反応はアルカリ性のところも存在する。鬼岳周辺に分布し、畑地として利用され桑・飼料作物・タバコ・野菜等が栽培されている。

2-2-14 粗粒淡色黒ボク土壌

地皮下30cm以下に盤層(堅い火山砂礫層)を有する淡色黒ボク土壌である。土壌の性質は淡色黒ボク土壌に類似しているが、下層に盤層を有するために、有効土層は浅く、作物は早ばつにかかりやすいので注意を要する。

2-2-15 赤色土壌

下層土の土色が5YR 4/4より赤い土壌である。玄武岩・ひん岩の風化物を母材とする土壌で、表土の土性はLiC、下層土はLiC~HCである。土壌は重粘であるので有効水分は少なくとくに下層土はち密で通気性、透水性が悪く、湿害や早ばつの害を受けやすい。全地域に点状して分布する。畑地として利用され、桑・飼料作物・野菜等が栽培されている。

2-2-16, 17, 18 黄色土壌

下層土の土色が5YRより黄色味の強い土壌である。玄武岩・ひん岩・花崗岩等の風化物を母材とする土壌で表土の土性はL~LiC、下層土はCL~HCである。しかし大部分の黄色土壌は重粘で、土壌の性質は赤色土壌に類似し、湿害や早ばつを受けやすい。

下層に礫層や盤層を有するものもあるが、代表地点の表示にとどめ、区分はしていない。

全地域に分布し、面積は最大である。畑地として利用され、桑・飼料作物・タバコ・野菜・ばれいしょ・ミカン等が栽培されている。

2-2-19 黄色土壌(湿性)

黄色土壌で鉄・マンガンの斑紋を有する土壌である。ひん岩・花崗岩・粘板岩・玄武岩等の

風化物を母材とする土壌で河川沿いの棚田に分布し水田として利用されている。

2-2-20 暗赤色土壌

下層土の土色が5 YR $\frac{4}{4}$ 又はそれ以下の土壌である。玄武岩の風化物を母材とする土壌で、表土の土性はLiC, 下層土はLiC~HCである。土壌の性質は赤色土壌に類似しており、湿害および早ばつの害を受けやすい。福江市・岐宿町の一部に分布し、畑地として利用されている。

2-2-21 褐色低地土壌

下層土の土色が黄褐色の低地土壌で、鉄・マンガンの斑紋結核を有する土壌である。表土の土性はL~LiC, 下層土はL~HCである。秋落するところがあるので、含鉄資材・珪酸質資材の施用を考慮する必要がある。全域に散在し、水田として利用されている。

2-2-22 粗粒褐色低地土壌

下層土の土色が黄褐色で、鉄・マンガンの斑紋結核を有し、地表下30~60cm以下礫層が出現する。表土の土性はL~CL, 下層土はSL~LiCである。秋落は軽~甚であるので、客土・含鉄資材・珪酸質資材の施用を考慮する必要がある。岐宿町・福江市に分布し、水田として利用されている。

2-2-23 細粒灰色低地土壌

下層土の土色が灰色~灰褐色の土壌で、鉄・マンガンの斑紋・結核を有する。表土の土性はCL, 下層土はCL~LiCである。秋落はなし~軽である。久賀島に分布し、水田として利用されている。

2-2-24 灰色低地土壌

下層土の土色が灰色~灰褐色で、鉄の斑紋を有する土壌である。表土の土性はCL, 下層土はLである。久賀島に分布し、水田として利用されている。

2-2-25 粗粒灰色低地土壌

下層土の土色が灰色~灰褐色で、鉄の斑紋を有し、地表下20~60cm以下礫層が出現する土壌である。土性は表土・下層土ともにL~CLである。秋落は軽~甚で、玉ノ浦町・岐宿町に分布し、水田として利用されている。

2-2-26 細粒グライ土壌

作土直下か地表下30~60cm以下グライ層が出現する土壌である。ひん岩~玄武岩系の冲積~崩積性土壌で、養分含量は多い。秋落は軽~甚で、玉之浦町・岐宿町・富江町・福江市に僅かに分布し、水田として利用されている。

2-2-27 粗粒グライ土壌

作土直下か地表下30～60cm以下グライ層を有する土壌で、地表下20～60cm以下礫層が出現する。表土の土性はCL，下層土はCL～LiCである。秋落は軽～甚で、玉之浦町・富江町・福江市に分布し、水田として利用されている。

2-2-28 低位泥炭土壌

作土直下か地表下25cm以下泥炭層を有する。土性は表土および下層土ともにCである。玉之浦町および福江市に分布し、水田として利用されている。

(長崎県総合農林試験場 小野末太)

IV 傾斜区分図

本図における急崖地・ S_7 は、男女群島の女島の東岸で、女島の最高点281.3m近くにまで達する3段の急崖が最も特異な存在で、男女群島には全島・高さ50~80mの海食崖に囲まれている。福江島では、外洋に面する西南海岸で海食崖の発達が著しく、特に大瀬崎を中心に、鯛ノ鼻から大宝崎付近まで、高さ50~100mの急崖が凡そ10kmにわたって連続している。嵯峨島西岸の海食崖は、高さ140mに達し、火山体を中央部まで切断している。鷲ヶ岳山地の急崖は、久賀島の急崖に連続する西向き海食崖である。樺島・螺蝶島・黄島・黒島など東部の属島では、東向き乃至南向きの海食崖が卓越している。以上、海岸部の自然的急崖に対し、内陸では、五島鉱山や道路開発による人工的小規模な S_7 が示されている。

急傾斜地 S_6 は、海食崖 S_7 に付随して分布しており、特に福江島西南部・男女群島に卓越している。

S_5 は、福江島西部山地のうち、北部の父ヶ岳山地及び玉之浦湾岸山地に広く分布し、福江島東部山地では唐岳・翁頭山・高岳などの山頂部に限られる。また樺島山地・ツブラ島山地や坊主岳丘陵地も S_5 を示している。

S_4 は、福江島東部山地の大部分を占め、福江島西部山地の南部の牧場山地では S_4 が卓越し、岩谷山地では S_3 が広い範囲を占めている。他方、久賀島山地の大部分は S_4 を示し、大泊・平蔵丘陵地やその属島丘陵地も S_4 地帯をなす。鬼岳火山地の山頂部及び箕岳火山地は S_4 で示されるが、鬼岳火山山麓地は S_3 乃至 S_2 をなし、京ノ岳火山や嵯峨島火山の火山地は S_3 、火山山麓地は S_2 の緩斜面を呈している。

S_3 は、上述の火山地のほか、起伏量100m以下の丘陵地帯に分布している。

S_2 は、上述の火山山麓地のほか、福江溶岩台地・岐宿溶岩台地や山内盆地の開析扇状地群に指摘される。

S_1 は、福江島中央に鰐川谷底平野が広く分布するほかは、谷底平野では、紐状の分布を示すにとどまるが、富江溶岩台地・深江溶岩台地・貝津溶岩台地などの溶岩台地上では広汎な S_1 面を展開している。

(長崎大学名誉教授・石井泰義)

V 水系・谷密度

福江島の水系は、北海岸に流入する河川・南海岸・東海岸・西海岸に流入する河川の四つに大別され、それぞれの特徴を示している。

北海岸に流入する一ノ河川・鰐川は、五島列島では最も大きな河川に属し、前者は流域面積、 3.45 km^2 、全長 13.99 km 、後者は流域面積 3.24 km^2 、全長 14.67 km をなす。(県勢要覽による)。このほか、大河原川・小河原川・杵淵川・浦ノ川・奥木場川・大蔵川などの河川を合わせると、北岸に流入する河川の総流域面積は、福江島総面積の 6.0% にも達する。従って、他の諸河川との分水界は、南・東・西に偏在している。特に、翁頭山-高岳-大山瀬-富江牧場-大宝をつなぐ分水界以南の田尾川・山手川・丸子川・琴石川などの諸河川は、全長 2 km 以下の急流をなす短小河川である。東岸に流入する福江川(流域面積 2.68 km^2 、全長 9.50 km)・田部手川・下六方川などは、福江溶岩台地を刻む河川で、中・下流の勾配は極めて緩やかである。西岸に流入する貝津川・大持坂川・七岳川・荒川川・中須川・小川川のうち、貝津川は貝津溶岩台地を刻むきわめて緩傾斜の河川であるが、他の諸河川は南岸河川に次いで急勾配を示し、北部の父岳山地を西流する大持坂川・七岳川などは特に急勾配で、南部の中須川(全長 7.70 km 、流域面積 16.5 km^2)・小川川は北部に較べて勾配が小さく、全長・流域面積共に大きい。特に、中須川の上流は、山手川や小川川の上流を争奪した可能性を有する。

久賀島の河川は、外縁河川と久賀湾に流入する内部河川に大別されるが、田ノ浦川・五輪川・福見川・骨喰川・細石流川などの外縁河川は、きわめて急勾配の短小な溪流をなし、大開川・市小木川・猪ノ木川・深浦川などの内部河川は、全長 3 km 以下の短小河川である。

奈留島・樺島・男女群島やその他の属島では、河川らしきものは存在せず、極めて短小且つ急勾配の溪流がみられる。

ダムを設置は福江島に限られ、大川原川の上流に大川原ダム(貯水量・ $763,000 \text{ m}^3$)、一ノ河川上流に繁敷ダム(貯水量・ $1,490,000 \text{ m}^3$)、福江川上・中流に内閣ダム(アースダム・貯水量・ $900,000 \text{ m}^3$)・福江ダム(貯水量・ $636,000 \text{ m}^3$)がある。

本図における谷密度の分布は、福江島では東部山地で 3.0 以上、西部山地でも 3.0 以上の集団がみられ、東部山地と西部山地の間をなす岐宿溶岩台地-山内(中岳)盆地-繁敷盆地-繁敷小起伏山地の地帯では 2.0 台に低下し、特に中岳付近では 1.0 台が示される。西部山地のうち、玉之浦湾西岸台地では 2.0 台に低下している。谷密度 2.0 以下の地域は東南部の福江溶岩台地・富江溶岩台地、鬼岳・箕岳火山地や西北部の岐宿溶岩台地・貝津溶岩台地・嵯峨島溶岩台地・京

ノ岳火山地・嵯峨島火山地があげられ、そのうち台地面や火山山麓地では、10以下を示している。

久賀島では、東部山地で、30台；西部山地で20台、北端の丘陵地や内部丘陵地では10台が示されている。奈留島では、南部丘陵地の泊付近で20台、城岳で10台がみられるほかは、10台以下となっており、樺島では10台が卓越している。男女群島やその他の属島では10以下が示されている。

(長崎大学名誉教授・石井泰義)

VI 土地利用現況図

本図に示される島嶼の陸地面積は総計およそ 410 km²で、耕地総面積は 8,200 ha、耕地化率は 2.01%である。別表で、これを島嶼別にみると福江島の耕地化率は 23.0%、久賀島や奈留島の南部は、10%前後で、樺島や島山島は低い率を示すものの、嵯峨島・黄島・赤島・黒島の火山島では 20~30%の高い率が示される。男女群島やその他の属島は無入島で耕地化されていない。水田率は福江島で 23.7%、樺島で 13.6%、内湾に干拓地を有する久賀島で最も高く 46.9%が示され、奈留島南部では 10~15%が推定される。その他の火山島では、水田は皆無で、畑作のみとなっている。福江島内での集団的水田地帯は、鱒川中流の山内(中岳)盆地で、五島の穀倉地帯をなす他は、谷底平野に細長い紐状の水田が伸び、河口部乃至湾奥部に小規模な干拓地の水田を伴っている。

(別表)

島嶼名	面積(km ²)	耕地面積(ha)	水田面積(ha)	畑面積(ha)	耕地化率(%)
福江島	324.86	7,491	1,775	5,716	23.0
久賀島	38.70	392	184	208	10.1
樺島	11.96	66	9	57	5.5
黄島	1.42	33	-	33	23.2
赤島	0.64	11	-	11	17.1
黒島	1.32	21	-	21	15.9
嵯峨島	2.82	88	-	88	31.2
島山島	4.50	3	-	3	0.7
奈留島	24.68	175	14	161	7.0
男女群島	5.00	-	-	-	-

離島—その現況と対策—離島実態調査委員会(1966年)

離島統計年報(1970年版)・日本離島センター(1971年)により作成(1部修正)

畑作が卓越し、特徴的畑作物としては、甘藷・たばこがあげられ、前掲の島嶼における甘藷は年産 19,200 トンを生産し、長崎県全生産額の 3.05%を占め、この地域最大の畑作特産物である。たばこは岳島火山や京ノ岳火山の山麓地や岐宿・福江・貝津・富江の諸溶岩台地を主産地としている。一方 1965 年以後、上述のたばこ生産地帯に桑園が抬頭し、養蚕が行われ、年間

収藪量は82万 μ に達している。大川原ダムは京ノ岳火山の山麓地や貝津溶岩台地上の、繁敷ダムは富江溶岩台地上の、内閣ダム・福江ダムは富江溶岩台地上の畑地灌漑を主目的として建設され、桑園の拡大・そさい・たばこ・ミカンなど換金作物の増加を今後の課題としている。ミカン園は、現時点では大きな伸展はみられず年間830トンの生産にとどまっている。

牧畜面では、この地域は五島牛の特産地で、肉用牛の飼育頭数は11,200頭にのぼり五島列島(宇久島・小値賀島を除く)における飼育頭数の90%以上を占める。富江・富江・岐宿・貝津の溶岩台地が主産地で、貝津には県放牧試験地がある。また、西部山地に属する牧場山地の山頂平坦面上には富江の山地牧場がみられる。放牧採草地は富江島で240ha、久賀島で43ha、黒島で15haを有し、嵯峨島・赤島・黄島でも放牧が行われ1~2haの採草地がある。乳牛は、富江・富江の溶岩台地で470頭が飼育されているにすぎない。

林業は、東部山地・西部山地に行われるが、国有林にしても未だ広葉樹主体の自然林が45%を占める現況であり、民有林では私有林が70%を占め、その大半が混交林をなし、30%弱の市町村有林・財産区有林で針葉樹主体の人工林がみられ、県営林は5%内外にとどまっている。男女群島やその他の属島では、広葉樹主体の自然林におおわれているのが一般である。

(長崎大学名誉教授・石井泰義)

1981年3月 印刷発行

離島振興開発地域

土地分類基本調査

三井楽・福江・玉之浦
・富江・男島及女島

編集発行 長崎県土地対策室

長崎市江戸町2-13

印刷 株式会社富士マイクロサービスセンター

熊本市水前寺6丁目46-1